

Monochrome Circus × graf × 山中透

TROPE

device as a new structure

家具と身体の間答。

ダンスカンパニー**Monochrome Circus**（京都）と
クリエイティブ集団 **graf**（大阪）による **2年ぶりの舞台公演が決定！**

日時：2013年1月19日（土）～1月26日（土）
会場：MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w
チケット発売日：2012年11月20日（火）

ダンサー、家具職人、デザイナー、音楽家たちによる異色の舞台公演

2011年1月に公開し全公演満員となった舞台公演「TROPE（トロープ）」は、ダンスのみならずデザインや建築、アートなど各方面から様々な反響を呼びました。2年の時を経た今回は、構成や展開に新たな解釈を加えた7日間全9回公演という、**Monochrome Circus**としては初めてのロングラン公演に挑みます。また今回は2人のダンサーによるダブルキャストにも挑むなど、表現の新たな可能性も追求します。舞台音楽は今回も元 **dumb type** の山中透が担当。家具と身体が繰り広げる可能性に満ちた刺激的なパフォーマンスに、ぜひご期待ください。つきましては本公演の取材、掲載いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



Photo. Yasunori Shimomura (Shimomura photo office inc.)

当プレスリリースに関するお問い合わせ先

■ Monochrome Circus（担当：小鹿）
tel. 090-9704-8648 mail. mc@monochromecircus.com

■ graf（担当：小坂）
tel. 06-6459-2082 mail. info@graf-d3.com

【公演について】

パフォーマンス『TROPE』では、モノとカラダの持っている構造や状態を多層的にずらしながら、動作のひとつひとつを解体・再構築を繰り返すことで、身体の持つ豊かな言語や道具の在り方についてを考えます。

つい数十年前、またはそれよりも以前。資源に乏しく、テクノロジーすら我々の道具として身近では無かった時代には、ひとつのモノを何通りにも使う工夫や、生活の知恵と呼ばれる経験や身体記憶の賜が日常に溢れていました。それは人々の感覚や意識を常に「創造する」というベクトルで思考させていた、豊かな環境だったはずだと私たちは考えます。

21世紀、情報やモノに溢れた環境に置かれた私たちの感覚は、その「便利になったモノ」たちによって思考が支配をされているのではないのでしょうか。言い換えればモノが置かれた環境や状態が、私たち取る行動を定義付けているとも言えるのです。

私たちの暮らしを支えているたくさんの道具や家具。座る、持つ、引っぱる、押す、捻る……。身体の介入によって成立する道具や家具の機能。『TROPE』ではこれらの動作とモノとの関係を一度立ち止まって考え直すことで、人間が持つ身体能力の可能性や、見失ってしまった身体感覚、思考とモノとの間にある余白、そしてそこに存在するはずの創造力について問い直します。家具と身体の間答を通じて、これからの時代をサヴァイブする能力について考えたいと思います。

<2011年1月京都公演の様子>



Photo. Yasunori Shimomura (Shimomura photo office inc.)

【公演スケジュール】

2013年1月19日（土）～26日（土）全9回

1/19（土）14:00 / 18:00

1/20（日）14:00 / 18:00

1/21（月）休演

1/22（火）19:30

1/23（水）19:30

1/24（木）19:30

1/25（金）19:30

1/26（土）14:00

【会場】

MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w (<http://www.voicegallery.org/>)

京都市南区東九条西岩本町10 オーシャンプリントビル/OAC1階

TEL 075-585-8458

【チケット発売】

2012年11月20日（火）

【開催概要】

日時：2013年1月19日（土）～26日（土）全9回

会場：MATSUO MEGUMI+VOICE GALLERY pfs/w

京都市南区東九条西岩本町10 オーシャンプリントビル/OAC1階

演出・構成：坂本公成 服部滋樹

出演：森裕子、佐伯有香、野村香子、graf

ダブルキャスト* 合田有紀 渡邊尚 小寺麻子 福井幸代

舞台美術：graf

音楽：山中透

舞台監督：渡川知彦

宣伝美術：横山道雄（graf）

共催：MATSUO MEGUMI +VOICE GALLERY pfs/w、flowing KARASUMA

主催：一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメント、graf

助成：平成24年度文化芸術振興費補助金（トップレベルの舞台芸術創造事業）

協力：flowing KARASUMA

京都芸術センター制作支援事業

当プレスリリースに関するお問い合わせ先

■ Monochrome Circus（担当：小鹿）

tel. 090-9704-8648 mail. mc@monochromecircus.com

■ graf（担当：小坂）

tel. 06-6459-2082 mail. info@graf-d3.com

【公演に寄せて】

坂本公成（**Monochrome Circus**）

身体の中に「空間」がある。これまで生きて来た経験や空想力に基づいて、「空間」はそれぞれの身体の中にそれぞれの濃密さでもって織り込まれている。例えば、目を閉じて自分の生まれた家のことを思い出してみよう。入り口を空けてどんな風に玄関を通ったか？床の材質。次の扉までの距離。リビングを抜けて自分の部屋へ辿り着く。階段の段差はどのくらいだったか？目が覚めてベッドから降りたときに手の届く物。目を閉じて、それなりの広さがあれば今でも家の細部全てを辿って（**Trace** して）歩けそうな気がしてくる。「自分の家」をもう一度生き直せそうな気がしてくる。ダンサーとはそんな内部の空間と外部の空間を新鮮な形で動きにしていく「霊媒」なのではないかと思う。**graf**の家具が好きなのは、そこに「余白」が多いからだ。そこにいろいろと使い手である自分たちの創造力や動きが付け加えることができる。今回の公演はそんな構えでいるダンサー達と、**graf**の家具職人による問答集です。誤読だらけかもしれないけど、またそれもよいではありませんか。

服部滋樹（**graf**）

身体記憶について。そんな会話から始まった。無意識的に体はそのモノを捉えて勝手に行動する。アフォーダンスの原理だ。使いやすさとは心理的にコントロールさせる事が出来るものなのだ。それは体が覚え理解し行動している。その流れは「便利」と理解し故にそのモノ自体の生まれ方や不便であった頃の事を思い返せないでいる。何故かおかしい。使い方を改めて考える事が出来たなら自分にフィットするモノを見つけ出せるかもしれない。新しい使い方も同時に発見できるかもしれない。起源に帰る。生まれてきた理由をもう一度考えてみる。何気なく生活している空間を見つめ直してみる。すると些細なコトからも暮らしのアイデアが見えてくるはず。1つの機能を多様に見立て使いこなすコトも知恵として向上する。例え物質的に豊かになったとは言え、足りない事はそれぞれに工夫しながら自分の生活を造っている。コト足りないコトから生まれてくる新しい暮らし発見を見つけ出したいと思う。行動する体に罫を仕掛け、思い込んでいる動きを一瞬止めて体で考えてみる。

【プロフィール】

モノクロームサーカス



<振付、演出、構成、出演>

京都を拠点に活動するダンスカンパニー。1990年設立。主宰、坂本公成。「身体をめぐる／との対話」をテーマに活動を始め、現在13のレパートリー作品を維持する。それぞれがソロやデュオを踊りきる力量を持ちながら、一方でコンタクトなどを活かした有機的なアンサンブルが持ち味のダンサー集団。近年では別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」での「ダンサーを探せ！」(大分県／2009)や、瀬戸内国際芸術祭「直島劇場」(香川県／2010)、ダンスダリエール(フランス／2011)など、国内外のフェスティバルにも参加。

www.monochromecircus.com

graf

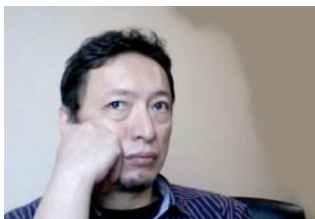


<舞台美術、宣伝美術、演出、構成>

大阪・中之島を拠点に家具、空間、プロダクト、グラフィックデザインから食、アートに至るまで「暮らしのための構造」をキーワードに幅広い活動を展開するクリエイティブ集団。ものづくりの精神を基本にしながら、近年では一次生産者との交流から発展したマルシェ形態のコミュニティ型プロジェクト「FANTASTIC MARKET」を主催するなど、デザインだけにとらわれない新たな領域を拡張している。

www.graf-d3.com

山中透



<音楽>

作曲家、レコーディング・エンジニア、プロデューサー、DJ。Foil Records 主宰。音楽のみにとらわれず様々な分野のアーティストと積極的にコラボレーションを行っている。dumb type の音楽を00年まで担当。'89年よりクラブ・イベント「Diamonds Are Forever」主催、DJも務める。'02年より高橋匡太と映像、音楽、ダンスパフォーマンス、インスタレーションの作品を発表している。

【プロダクトブランドライン TROPE】

舞台公演『TROPE』で発表された道具たちは、その2ヶ月後の2011年3月に graf の新しい商品ラインナップとして発表されました。コンセプトは「使い手の感覚を呼び覚ます道具」。日々の暮らしを豊かにするためのアイデアのきっかけとなるような道具を目指し、道具としての機能を最小限まで削ることで、使い手に自ら工夫し使いこなす楽しさを提案しているラインナップです。



Photo. Rie Nitta

【Monochrome Circus と graf の活動履歴】

Cage (2009) 上演地：フランス／京都

[振付] 坂本公成 [出演] Monochrome Circus [宣伝美術] graf



©T.Shimizu

D__E__S__K (2009) 上演地：京都／東京／福岡／岐阜／広島

[振付] じゅんじゅん [出演] Monochrome Circus+森川弘和、森井淳 [宣伝美術/舞台美術] graf



©T.Shimizu

瀬戸内国際芸術祭 2010『直島劇場』 (2010) 上演地：直島／香川県

[演出／構成] 坂本公成+服部滋樹 [ヴィジュアル・プロダクション] graf [主催] 瀬戸内国際芸術祭実行委員会

